

シンポジウム

■Date/Time : Wed. Nov. 27/10 : 40 ~ 12 : 10

■Room : Hall 1 (2F Civic Hall)

Symposium 1 (基 B・臨 C)

Cutting edge research
on HIV latency and
persistence
(HIV 持続潜伏感染に関する最
先端研究)

Chairs Hirofumi Akari (Kyoto University)
Yorifumi Satou (Kumamoto University)

■Speakers

SY1-1 Multi-omics investigation of
HIV-1-infected cells in
humanized mouse model

Kei Sato

Institute of Medical Science, The University of
Tokyo, JST CREST

SY1-2 Treatment of HIV-1-reservoirs
using latency-reversing agents
(LRAs) toward HIV cure

Kenji Maeda

National Center for Global Health and
Medicine Research Institute, Japan

SY1-3 Underlying mechanisms of
experimental HIV-1 cure
observed in the newly developed
in vitro model system

Yorifumi Satou

Kumamoto University

SY1-4 Shaping the HIV-1 proviral and
viral landscape

Ya-Chi Ho

Department of Microbial Pathogenesis, Yale
School of Medicine

共催：熊本大学レトロウイルス学共同研究センター

■日時：11月27日(水) 10:40 ~ 12:10

■会場：第2会場(熊本城ホール3F大会議室A1)

シンポジウム 2 (臨 C・検 CL・社 S)

新しい HIV 確認検査法を我々
はどのように使用していくべき
か

座長

貞升健志 (東京都健康安全研究センター 微生物部)
今村顕史 (がん・感染症センター都立駒込病院感
染症科)

■演者

イントロダクション

今村顕史

がん・感染症センター都立駒込病院感染症科

SY2-1 新しい HIV 確認検査試薬「Geenius
HIV-1/2」の特徴について

川畑拓也

(地独) 大阪健康安全基盤研究所 微生物部ウイルス課

SY2-2 保健所検査検体での新しい HIV 確認検
査試薬の使用経験

長島真美

東京都健康安全研究センター 微生物部

SY2-3 即日検査相談会の経験から、新しい確
認検査試薬への期待

本間隆之

山梨県立大学看護学部

SY2-4 NGO の視点からみた新しい確認検査
法への期待 ~コミュニティセンター
akta での HIVcheck.jp の経験から

岩橋恒太

特定非営利活動法人 akta

SY2-5 エイズ学会推奨検査法改訂に向けたポ
イント

貞升健志

東京都健康安全研究センター 微生物部

シンポジウム

■日時：11月27日（水）13：30～15：00

■会場：第1会場（熊本城ホール2Fシビックホール）

シンポジウム 3 （臨C・社S）

長期治療時代のメンタルヘルス
とアドヒアランス

座長

松下修三（熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター）
栗原 健（一般社団法人 日本病院薬剤師会）

■演者

SY3-1 長期治療で経験する問題点～服薬支援

大石裕樹

国立病院機構九州医療センター薬剤部

SY3-2 長期治療時代におけるセルフマネジメントと心理支援

辻麻理子

国立病院機構九州医療センター

SY3-3 HIV 感染による中核神経合併症

田沼順子

国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター

SY3-4 HIV 感染者のメンタルヘルスとその対応 - 当センターの課題と体制について -

小松賢亮

国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター

SY3-5 長期治療時代の精神科的問題

今井公文

筑波大学附属病院 日立社会連携教育研究センター

■日時：11月27日（水）13：30～15：00

■会場：第2会場（熊本城ホール3F大会議室A1）

シンポジウム 4 （社S・臨C）

U=U 時代の「性の健康」、日本
におけるコンビネーション
HIV 予防を考える

座長

谷口俊文（千葉大学医学部附属病院 感染症内科）
岩橋恒太（特定非営利活動法人 akta.）

■演者

SY4-1 改めてU=Uとは何か

大北全俊

東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻公共健康医学講座医療倫理学分野

SY4-2 MSM に対する検査提供と予防介入の実践と変遷

金子典代

名古屋市立大学看護学研究科

SY4-3 分子系統樹解析の予防対策への応用へ向けて

菊地 正

国立感染症研究所エイズ研究センター

SY4-4 SH 外来等における包括的な「性の健康」への諸取り組み

上村 悠

国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター

SY4-5 地方における性病クリニック検査の事業化と今後の展望

和田秀穂

川崎医科大学 血液内科学

シンポジウム

■日時：11月27日(水) 15:20～17:20

■会場：第1会場(熊本城ホール2Fシビックホール)

シンポジウム5 (臨C) 認定講習会(医師)

エイズ発症の困難症例にどう立ち向かう？

座長

山本政弘(国立病院機構九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター)
立川夏夫(横浜市立市民病院 感染症内科)

■演者

SY5-1 HIV 関連悪性リンパ腫の診断と治療における注意点

遠藤知之

北海道大学病院血液内科、北海道大学病院 HIV 診療支援センター

SY5-3 進行性多巣性白室脳症

福島一彰

がん・感染症センター都立駒込病院 感染症科

SY5-2 播種性 NTM 症の治療の実際

照屋勝治

国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター

SY5-4 トキソプラズマ症の現況と課題

健山正男

琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学

■Date/Time : Thu. Nov. 28/11 : 00 ~ 12 : 30

■Room : Hall 1 (2F Civic Hall)

Symposium 6 (基 B)

bnAb, cellular immunity and their collaboration
中和抗体、細胞性免疫と両者の協同

Chairs

Takamasa Ueno (Kumamoto University)
Takeo Kuwata (Kumamoto University)

感染初期の中和抗体投与によって HIV/SIV の増殖が長期に渡り抑制されたという研究結果が報告され、その機序や細胞性免疫の関与が注目されています。本シンポジウムでは、中和抗体と細胞性免疫、および両者の協同に関する最先端の研究を発表していただきます。

■Speakers

SY6-1 Polymorphism of Immunoglobulin germline gene restricts induction of bnAbs against SIV

Takeo Kuwata

Kumamoto University

SY6-3 bnAb immunotherapy during the acute infection can induce long-lasting cellular immunity to SHIV

Yoshiaki Nishimura

NIAID, NIH, USA

SY6-2 Neutralizing antibodies against SIV_{mac239}: T-cell synergism in protection and induction

Hiroyuki Yamamoto

AIDS Research Center, National Institute of Infectious Diseases, Japan

SY6-4 Mechanisms of Adaptive NK Cell Responses in HIV/SIV Infections and Vaccinations

R. Keith Reeves

Ragon Institute of MGH, MIT, and Harvard, USA

共催：熊本大学レトロウイルス学共同研究センター

シンポジウム

■日時：11月28日（木）11：00～12：30

■会場：第3会場（熊本城ホール3F大会議室A4）

シンポジウム7 （社S）

HIVとメンタルヘルス：予防とケアへの様々なアプローチと今後の展開に向けて～分野を超えて～

座長

矢永由里子（慶應義塾大学医学部感染制御センター）

■演者

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| SY7-1 | イントロダクション：メンタルヘルスの支援の基調をなすものについて
矢永由里子
慶應義塾大学医学部感染制御センター | SY7-5 | 予防 その2-1：地域での支援のあり方
井村弘子
沖縄国際大学総合文化学部 |
| SY7-2 | ケア その1：当センターにおけるHIV カウンセリング・メンタルヘルス支援の現状と課題
小松賢亮
国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター | SY7-6 | 予防 その2-2：一当事者から見たメンタルヘルスとピアサポート
山本大輔
OHPAM（オーパム） |
| SY7-3 | ケア その2：地方都市におけるカウンセリングの動向と推移：チーム医療の中での患者のメンタルヘルスケアを考える
江崎百美子
熊本大学病院感染免疫診療部・くまもと心理カウンセリングセンター | SY7-7 | 指定討論
三木浩司
平成紫川会小倉記念病院緩和ケア精神科 |
| SY7-4 | 予防 その1：医師による患者への早期支援：カウンセラーとの連携と実際
今村顕史
がん・感染症センター都立駒込病院 感染症科 | | |

シンポジウム

■日時：11月29日（金）9：00～10：30

■会場：第1会場（熊本城ホール2Fシビックホール）

シンポジウム8 （社S・臨C）

日本で same day ART initiation ができる体制づくりを目指すためには？

座長

井上洋士（国立がん研究センター がん対策情報センター）
塚田訓久（国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター）

■演者

SY8-1 HIV対策において身体障害者手帳が果たすべき役割（制度取得までの歴史を踏まえて）

岩野友里

社会福祉法人はばたき福祉事業団

身体障害者手帳が HIV に導入されるようになった医療的・福祉的・社会的経緯と意義（ビデオ出演）

大平勝美

社会福祉法人はばたき福祉事業団

SY8-2 世界の HIV 治療ガイドラインでの same day ART initiation と、日本の身体障害者手帳制度で変えるべき点

塚田訓久

国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター

SY8-3 治療開始を決めた HIV 陽性者の身体障害者認定について～大阪医療センターの経験から～

岡本 学

国立病院機構 大阪医療センター HIV 地域医療支援室

SY8-4 NPO の立場から、HIV 検査や予防啓発、HIV 陽性者支援等で感じる課題

生島 嗣

特定非営利活動法人ふれいす東京

シンポジウム

■日時：11月29日（金）9：00～10：30

■会場：第2会場（熊本城ホール3F大会議室A1）

シンポジウム9 （臨C・社S）

長期療養における薬害被害者の課題

座長

潟永博之（国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター）
竹谷英之（東京大学医科学研究所附属病院関節外科）

■演者

SY9-1 当事者からみた薬害 HIV 感染被害患者の長期療養の課題と医療者への期待

武田飛呂城

社会福祉法人はばたき福祉事業団

SY9-2 長期療養の課題と患者支援団体による取組み

柿沼章子

社会福祉法人はばたき福祉事業団

SY9-3 薬害 HIV 感染者の病病連携 -ACC 救済医療室の経験 -

田沼順子

国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター

SY9-4 運動機能と日常生活、社会参加

藤谷順子

国立国際医療研究センター リハビリテーション科

SY9-5 薬害被害者における虚血性心疾患のスクリーニング

廣井透雄

国立国際医療研究センター病院 循環器内科

SY9-6 血友病 HIV 感染者における非エイズ悪性腫瘍（NADM）

岡 慎一

国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター

■日時：11月29日（金）10：40～12：10

■会場：第2会場（熊本城ホール3F大会議室A1）

シンポジウム10 （臨C）

長期治療と生活習慣病：生活習慣への医療者のかかわり

座長

東 政美（国立病院機構 大阪医療センター）
留美（国立病院機構 九州医療センター 免疫感染症内科）

■演者

SY10-1 HIV 感染者の生活習慣病へのアプローチ

関谷綾子

東京医科大学臨床検査医学分野、がん感染症センター都立駒込病院糖尿病内科

SY10-2 長期療養と生活習慣への関わり～看護師の立場から～

東 政美

国立病院機構 大阪医療センター

SY10-3 運動習慣の形成のための検診会活動

藤谷順子

国立国際医療研究センター リハビリテーション科

SY10-4 生活習慣病とポリファーマシー

中内崇夫

国立病院機構 大阪医療センター 薬剤部

SY10-5 管理栄養士としての関わり

安楽菜月

国立病院機構 九州医療センター 栄養管理室